

(別記)

令和2年度黒松内町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は恵まれた自然環境や地域の特色を生かして、稲作、畑作、酪農、肉用牛を柱とした適地適産を進め生産の安定を図っている。

しかしながら、本町の農業は、後継者が不足していることに加え、経営者の高齢化が進み、また、生産調整の拡大により生産意欲の低下もみられ厳しい現状にあり、不作付地の拡大が進むおそれがあることから農地中間管理機構の事業等を活用して担い手への集積を図る。

更に、米価の下落をはじめとする農畜産物価格の低迷による収益の低下、輸入農畜産物との競争、産地間競争の激化、環境問題や食品の安全性に対する地域住民の関心の高まりなど、農業情勢は一層厳しい状況にある。

稲作については、冷涼な気候条件に対応するため昭和59年に「もち米団地」指定を後志管内でいち早く受けるとともに栽培技術の向上を進めながら時代のニーズに合った良質米の生産を促進するため、全面積をもち米転換に推進するなど生産振興と経営の安定を図っている。

このようなことから、今後、稲作農家については、生産体制の整備、安定生産に向けての経営改善等を一層推進するとともに、稲作に転作作物を適切に組み合わせた水田の複合利用をし、戦略作物や地域の振興作物を適切に組み合わせた水田フル活用を実施し、戦略作物や地域の振興作物の定着と稲作のより一層の生産性向上を図る事が重要な課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

町内の約162ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

国内の生産間競争が一層強まることが予想される中で、安全・安心な米づくりを基本とし、稲作経営の安定を図るため、もち米の品質向上と良質米の生産、生産組織による作業受委託や経営単位の拡大、良質堆肥を活用した土づくりなどによる低農薬、低化学肥料栽培等を促進し、生産性の高い水田農業の確立を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

令和2年度においては作付予定はないが、水張転作の選択肢の一つとして産地交付金を活用して取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆においては、地域における高齢化が進行する中、耕作放棄地の増加を防止するため、担い手への農地集積や団地化を進めることとし、令和2年においても現行の麦の作付面積を維持するとともに品質の向上を図る。

飼料作物は、馬鈴しょ等とともに転作の基幹作物となっており、酪農、肉用牛と有機的に結びついた定着性の高い転作が行われ、今後も畜産農家との結びつきを強め、より一層の有効利用を推進する。

(4) そば、なたね

そばについては、地域において高齢化が進行する中、耕作放棄地の増加を防止するためにも、重要な作物であると位置付け、担い手への農地集積等を進めることとし、令和3年においても現行の栽培面積を維持するとともに品質の向上を図る。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

現状においては、取組予定なし。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	37.3	37.3	37.3
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦	0.5	0.5	0.5
大豆			
飼料作物	10.7	10.7	10.7
そば	2	2	2
なたね			
その他地域振興作物			
野菜			
てん菜			

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	麦・そば	重点振興作物 作付助成	作付面積 麦品質区分 そば品質区分	(元年度) 2.38ha (元年度) 1等Aランク 100% (元年度) 1等級 97.04%	(2年度) 2.38ha (2年度) 1等Aランク 100% (2年度) 1等級 100%

2	そば	そば作付助成	作付面積	(元年度) 1.95ha	(2年度) 1.95a
---	----	--------	------	--------------	-------------

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり